

平成27年度(2015年度) 蘇南高等学校「教員による学校自己評価表」(最終)

調査実施日 平成28年(2016年)2月24日
調査対象 常勤職員 28名

70 蘇南高等学校

大項目	評価項目(小項目)	評価の観点<具体的な教育活動>(関係する学年・部・係・委員会)	A	B	C	D	指標	昨年指標	比較	反省・改善に係る意見
1 安全・安心な 学校の保証 (いじめ・体罰ゼロ)	1 他者を尊重する人権教育を推進することができたか。	・あいさつ運動や教室の整頓の活動で、学習環境他者を尊重する環境を整える。(学年・生徒会) ・「いじめ」をテーマに人権講話を実施し、人権教育を推進する。(人権)	22%	78%	0%	0%	80	79	1	・あいさつは活発になってきていると感じる。さらに積極的に声掛けをおこない、あいさつから始まるコミュニケーションが活性化するようにしたい。
	2 生徒の人権を尊重し、いじめ、暴力や暴言による体罰を学校から根絶させることができたか。	・日常的な生徒観察によって、暴力・暴言、いじめを根絶する。(学年・生指・生徒相談) ・相談窓口を生徒に周知し、教員による体罰やセクハラを生徒が訴えやすい環境を整える。(生徒相談)	39%	61%	0%	0%	85	81	4	・日常的に生徒との丁寧な関わりを持つことで、落ち着いた生活ができる環境になっている。 ・生徒相談の窓口がはっきりしていないので、次年度生徒相談係を相談窓口として一本化し、生徒が相談しやすい環境作りをしなければいけない。
	3 学校生活や登下校において安心と安全が確保できたか。	・校内巡視記録を用いて、校舎内外の環境点検を定期的に行う。(保健) ・生徒会・職員による交通安全立ち番を実施し、交通ルールを順守する態度を育成する。(生徒会・生指) ・校内及び通学路の危険箇所を点検し、生徒に周知徹底する。(生指) ・「オクレンジャーシステム」を活用し、生徒・保護者に対して危機管理に関する情報発信を行う。(渉外・教務)	41%	59%	0%	0%	85	79	6	・学習環境を整え、生徒が落ちついて学習に取り組めるようにした。定期的な生徒アンケートや面談を実施すると共に、休み時間中の生徒の動向にも目を配り、細かな心境の変化を把握しようとした。 ・挨拶運動、交通安全を呼びかける運動を通して、安心かつ安全な学校の促進に努めた。 ・オクレンジャーシステムへの加入率100%を目指し、係による丁寧な指導は有り難かった。
	4 生徒の日常生活を把握し、基本的な生活習慣の確立を促し校則を遵守させ、落ち着いた学校生活を送らせる指導ができたか。	・保護者との連絡を密にし、生徒の動静を把握する。(担任・生指・教務) ・出席状況や授業の様子を連絡担当者に取り合う(担任・生指・学年) ・制服規定、授業規律の徹底をはかる。(生指・学年) ・「規律ある学校生活を送るための心得」を周知徹底させる(生指・学年) ・SST等を利用し、社会人になるのに必要なマナーを身に付けさせるべく学年で取り組む。(学年)	30%	65%	4%	0%	82	79	3	・大きな問題行動はなかったが、服装等の指導が後手に回った感があるので次年度の反省としたい。 ・生徒間に切磋琢磨できる関係をづくり、自主的に学校や地域社会を創っていくような姿勢を育てたい。 ・1学年における産業社会と人間でSSTを実施し、それによって生徒の社会的スキルを向上させることができた。
2 きめ細かい 進路指導	5 進路希望に応じて生徒に有効な情報を提供し、きめ細やかな指導ができたか。	・進路実現に向けた、補習等の計画と実施。(学年・進路) ・学年と連携し「進路講話」を実施、また進路相談により進路選択の情報を提供する。(進路) ・進路指導に際して「進路検討会」を実施し、情報共有し効果的な指導を行う。(進路・学年)	39%	57%	4%	0%	84	85	-1	・各学年において、模擬試験前に各教科ごとの補習を行うことができた。 ・進路に関しては生徒・保護者と担任、担任と進路指導係との連携を密にして情報をもっと共有していくべき。 ・生徒一人につき、一人の教員が付くなど、生徒の進路実現のための手厚いサポートがあった。
	6 各種模試・検定・資格取得に取り組む工夫ができたか。	・キャリアアップにつながる資格取得の指導、及び講習会を実施する。(総推・教科) ・漢字検定3級以上の全員取得を目指す。(2学年)	26%	70%	4%	0%	80	78	2	・資格取得に向けた補習は実施できたが、さらに取得を奨励するような講習会は実施できなかった。 ・難しい資格の取得ができ、生徒の伸びを実感できた。
	7 生徒が自己の適性を見極め、職業観が形成できるよう指導ができたか。	・各事業所や産協と連携し、「総合的な学習の時間」を有効活用する。(学年・進路・総推) ・「産社」で外部講師による講演や職業教育を行い、職業に関する視野を広げる。(1学年・総推) ・全生徒を就業体験に参加させ、職業観を育成する。(2学年・総推) ・進路意識調査を定期的に行い、主体的な進路選択への情報提供と指導を行う。(進路)	48%	48%	4%	0%	86	80	6	・産業社会と人間での外部講師による講演などを通して、生徒の職業観を育成し、生徒の進路実現に向けて、意識を高めることができた。
	8 生徒がキャリア教育の一環として、学校外の事業へ積極的に参加できたか。	・「産社」・職場見学を通して、自己の将来や職業に対する考えを深めさせる。(1学年・総推・進路) ・「インターンシップ」「すぐせ修習」について、事前準備・体験・事後報告を指導する。(2学年・総推・進路) ・教職員の企業訪問研修を企画実施する。(進路・総推)	57%	39%	4%	0%	88	80	8	・インターンシップは、生徒が地域で働く方々と関わりを持ち職業を体験させていたことで、それまで触れることのなかった世界を知る大変貴重な機会となっているように感じた。 ・すぐせ修習やその他多くの資格取得を目指し、各担当の先生が授業内外で指導したことで、生徒のキャリアアップに貢献することができた。
3 授業力の向上 (わかる授業 魅力的な授業 学力のつく授業)	9 わかりやすい授業の実施と研究ができたか。	・個々の生徒の発達を把握し、基礎学力と探究的学力を伸ばす授業を実践する。(教科・学年) ・「授業研究月間」等を通して、教員相互に授業を公開し指導法向上に励む。(教務)	39%	61%	0%	0%	85	76	9	・教員相互の授業公開は、より良い授業を目指すための有意義な研修となっている。今後も定期的に行っていくべき。 ・習熟度別かつ小規模なクラス編成が実現でき、一人ひとりに目が届く効果的な学習環境を整えることができた。 ・生徒からの率直な意見を参考に授業改善に生かすことができた。
	10 基礎学力養成の機会を設定し、的確な指導ができたか。	・特別講座を実施し、基礎学力の定着をはかる。(学年・教務) ・「学び直し」を工夫し、高校での学習の基礎となる学力を全員につけさせる。(1年)	23%	68%	9%	0%	78	73	5	・生徒の学習段階に応じた授業内容の計画および実践を行うことができた。特別講座に関して、朝の15分間を有効に活用することができたと感じる。 ・特別講座の中で、数学と英語の「学びなおし」を図った。来年度は、生徒のレベルに応じた教材を選定する必要があると感じた。 ・特別講座1年目の反省を生かして、今後運営していくことが望まれる。特に基礎学力の定着していない生徒への支援を充実させるようにしていくべき。
4 生徒の主体的活動 (学習・クラブ活動 ・生徒会活動等)	11 総合学科の特色となる科目を通して、生徒が自ら課題を発見して解決する力を身につけることができたか。	・1年次から段階的かつ継続的に指導を行い、3年次「総合研究発表会」において3年間の成果が表せるように、組織的・計画的に指導を行う。(総推・学年)	35%	61%	4%	0%	83	76	7	・「産業社会と人間」「総合研究」では生徒自ら主体的に調べ学習を行い、実りある学習の時間を持つことができた。
	12 生徒が自主的に家庭学習を行う習慣を身につけることができたか。	・各教科による家庭学習課題や週末課題によって、家庭学習の習慣化を促す。(学年・教科) ・特別講座の学習をとおして、家庭学習を行うきっかけと学習習慣の定着を促す。(学年・教務) ・学習時間調査を実施し、学習習慣の確認と意識付けを行う。(教務・学年)	0%	59%	41%	0%	65	68	-3	・本年度、週末課題に関してはほとんど取り組めていない。その為、生徒の学習の定着度にも影響があったので、次年度以降の課題としたい。 ・定期考査前後において、PDCAサイクルを意識させた。学習時間の記録をつけさせた。来年度は、家庭学習の習慣化を目指して、課題の有無や内容等を考えていく必要がある。(1学年) ・家庭学習の定着については調査によって課題が見えてきたので、それを参考に次年度取り組んでいくことが望まれる。 ・家庭学習のための働きかけが必要であると感じる。教科内、他教科間でのさらなる連携と情報共有を図る必要がある。
	13 生徒が生き生きと目的をもって、課外活動に取り組める指導や支援を行えたか。	・放課後や休日の課外活動指導を充実させるとともに、顧問及び担任との連携を強化し、生徒の活動支援体制を高める。(生徒会・クラブ顧問会・学年)	26%	57%	17%	0%	77	70	7	・スマホやゲーム機といったIT機器が、生徒にとって家庭学習の障害になっていることが否めない。スマホ・インターネットの使い方や使用時間について、生徒はもちろん保護者へのはたらきかけも定期的に実施したい。また、積極的に講演会や講習会等も実施して、生徒・保護者の啓発に努めたい。
5 地域と共に 歩む学校	14 公開授業の参加者を増やす工夫ができたか。	・学年通信を充実させる。(学年) ・学年通信やメールで情報を発信し、懇談会で要望や地域の意見を把握する(生指・学年) ・健康管理についての情報を通信で発信する。(養護)	22%	65%	13%	0%	77	75	2	・蘇南アカデミーの誕生で環境面も整えられ生徒も職員も不安なく活動できるようになったことは大きな前進だと思う。 ・活動時間を増やすことができた。部員は部に所属する自覚を持ち、互いに高め合う存在となるよう、継続して指導したい。また、技術指導の専門性を高めるための研究を進めたい。
	15 保護者・地域へ情報を発信し、本校の理解に努めたか。	・中学校訪問、体験入学を通して本校の教育活動を発信し生徒募集につなげる。(総推) ・「総合研究発表会」「産社発表会」を地域にPR・発信し、多くの方に見てもらおう。(総推) ・「オクレンジャーシステム」を活用し、保護者に適切な情報発信を行う。(渉外・教務)	39%	52%	9%	0%	83	77	6	・年間を通して、学年通信や各クラスでの学級通信を配信し、学校やクラスの状況を保護者の方に発信することができた。来年度も継続する。 ・地域と協働して子どもを育てるために、開かれた学校を意識し、多様な結びつきを持つ学校にしたい。 ・総合研究発表会・産社発表会・販売実習などを通じて、本校生徒の学習や取り組みを地域の方々にもより理解していただくことができた。
	16 PTA・同窓会・地域と連携した活動ができたか。	・PTA・産協・学校評議員会等に進路実績・指導内容を報告し、開かれた進路指導を実施。(進路) ・保護者への図書貸し出しや、陶芸教室で、地域に開かれた学校にする。(図書視聴覚) ・祭り巡視などPTA活動によって、PTA・地域と連携して生徒を指導する。(生指・PTA) ・風紀、清美委員会の校外活動によって、地域社会に貢献する蘇南高校を目指す。(生指・生徒会) ・「産社」及び各教科の授業に地元講師を招聘する。(総推) ・地域と協働し「販売実習」を行う。(総推・商業) ・「パソコン教室」を開催し、地元小学生との交流をもつ。(総推・商業) ・「合同部活」「夏期特別講座」を開催し、地元中学生との交流をもつ。(教務) ・「陶芸教室」を開催し、地域に開かれた学校に資する。(美術科) ・蘇峰祭への参加者を増やせるように、保護者地域への広報活動を行う。(生徒会)	39%	52%	9%	0%	83	77	6	・パソコンにおいて、1学年生徒(経営ビジネス系列選択者)の主体的に活動する姿がみられ、非常に意味のある活動であると感じた。来年度もぜひ継続してほしい。 ・本年度も、保護者と関わりを持つ多くの行事を行うことができた。 ・地元の小売店と協同で商品開発ができた。(商業科) ・田立地区で収穫されたお茶を使用して商品開発を行い、地産地消に貢献した。(商業科)

H27年度 重点目標

		A	B	C	D	指標	昨年指標	比較
1	安心安全な学校の保証(いじめ・体罰ゼロ)	33%	66%	1%	0%	83	79	4
2	きめ細かい進路指導	42%	53%	4%	0%	85	81	4
3	授業力の向上(わかる授業・魅力的な授業・学力のつく授業)	24%	62%	13%	0%	78	75	3
4	生徒の主体的活動の支援(学習・部活動・生徒会等)	24%	61%	15%	0%	77	74	3
5	地域からの理解・信頼・期待の深化	39%	52%	9%	0%	83	76	7

<指標の算出方法> 全員がAを選べると100を示すよう算出
25 × (Aの割合 × 4 + Bの割合 × 3 + Cの割合 × 2 + Dの割合 × 1)

